



歩いて
見つけよう、感じよう
わがまちの看板



清水銀座商店街

平成 29 年 11 月 25 日(土)

看板まち歩き実施報告

静岡市 都市局 建築部 建築総務課

看板まち歩き実施報告書



歩いて
見つけよう、感じよう
わがまちの看板



表題の件について、下記の通り報告します。

記

- 1. 報告者** 静岡市 建築総務課 屋外広告物係 主幹兼係長 鈴木 志育
技師 松永 夏季
- 2. 日時** 平成 29 年 11 月 25 日 (土) 13 時 30 分から 15 時 30 分
- 3. 場所** 清水銀座商店街 (清水区銀座・江尻町)
- 4. 参加者**

清水銀座商店街振興組合関係者	2 名	(店先参加者 1 1 名)
静岡県広告美術業協同組合	7 名	
一般参加者	6 名	
静岡市建築総務課職員	5 名	
計	2 0 名	(店先参加者含め 3 1 名)

5. 開催目的

看板が街の活性化や景観の形成に果たす役割や、看板の安全管理の重要性を所有者の方々に知っていただくために行った。

6. 開催経緯

平成 27 年 2 月に札幌市で発生した袖看板の落下事故以降、全国的に屋外広告物の安全対策についての取組みが重点的にされてきており、まちの景観を考えるうえでの看板の影響についてもあわせて議論されている。そこで本市においては、看板の役割について周知し、多くの方々に看板に関心を持ってもらうための取り組みとして「看板まち歩き」を開催することとなった。

平成 28 年度は、清水駅前銀座商店街振興組合及び (公社) 静岡県屋外広告協会員の協力により、総勢 29 名の参加者を得て、好評をもって開催することができた。今年度は昨年の計画を引き継ぎ、隣接する清水銀座商店街を会場に開催することになった。商店街振興組合の理事長は、清水駅前銀座商店街での「看板まち歩き」の状況を報告書などである程度承知しておられ、商店街での開催を快く受けていただいた。

また、例年、屋外広告物適正化旬間の簡易除却作業でも協力をいただいている静岡県広告美術業協同組合 (清水支部) の方々も参加を申し出てくれた。

7. 開催状況

「まち歩き」と「意見交換会」の2部構成となっている。参加者を2つのグループに分け、決められたコースを看板の観察をしながらまちを歩き、可能な限り店先でその店の関係者から看板についての聴き取りも行った。

その後、まち歩きの結果をもとに意見交換及び発表をした。また、数点、良い看板として表彰対象のものを選んだ。

(1) まち歩き

商店街の2つのコースに、参加者を2つのグループ（い組・ろ組）に分けてまち歩きを行った。各組は一般参加、商店街関係者、専門家（看板業者）で構成し、専門家には看板のデザインや安全性などについて解説をしていただいた。また、事前にコースごとの看板マップと写真を載せた資料を配布し、現地を確認しながらメモを取れるようにした。

今回は商店街関係者の参加が少なかったことから、気に入った看板のある店先でその店

の関係者（店主、店員或いはお客）と積極的に会話をすることとし（もちろん商売の邪魔にならない程度に）、看板の情報を聴き取ることによって、自店の看板や商店街のまち並みに対する関心（想い）をあらためてもらうことを期待した。



◀写真1【い組】まち歩きの模様



◀写真2【ろ組】まち歩きの模様



◀写真3お店の方から看板情報の聴き取り

(2) 意見交換会

まち歩きを行った結果をもとに、グループごと意見交換を行った。資料をみながら、各自が良いと思った看板や気になった看板などについて意見を出し合った。



模造紙にグループで選んだ看板の写真カードを並べて貼り、各々の意見を書いた付箋をコメントの説明をしながら写真カードの近くに貼るようにした。

グループごとまとめたものは【写真9】【写真10】のとおり。

◀写真4【い組】意見交換会の模様



◀写真5【ろ組】意見交換会の模様



◀写真6意見交換会の模様

(3) 発表

意見交換会でまとめたものを、グループごと発表を行った。発表者は参加者の中から選出した。

気に入った＝「良い」として選び出した看板は、職人顔負けの手書きのものや、経年変化していい色合いになった金属製のレリーフ看板、季節ごと通りに彩りを添えている暖簾など数多く見つけることができた。

また、気になった＝「問題あり(?)」の看板も見受けられ、デザインや素材だけでなく、安全性やまち並みに与える影響について発表が行われた。



◀写真7【い組】意見交換会 まとめの発表



◀写真8【ろ組】意見交換会 まとめの発表



◀写真9【い組】意見交換会 まとめ



◀写真10【ろ組】意見交換会まとめ

(4) 表彰

各グループで選んだ「良い看板」の所有者に対し、日をあらためてお店に伺い、清水銀座商店街振興組合と建築総務課の連名で表彰を行った。



突然訪問しての表彰で、びっくりされている方が多かったが、みなさんに喜んでいただいた。

またあわせて「看板カード」(看板の写真をカードにしたもの)と「オーナーさんのための看板の安全管理ガイドブック」を渡し、今後も、安全管理を日頃から行い看板を良い状態に保つようお願いをした。

◀写真11 表彰風景

(5) 講評 (挨拶)

静岡県広告美術業協同組合の上村理事長と清水銀座商店街振興組合の田代理事長から講評を兼ね挨拶をいただいた。



▲写真12 上村理事長

■ 上村理事長 (静岡県広告美術業協同組合)

- ・静岡は他都市と違って、屋外広告に関するいろいろな活動をしている。(手前味噌だが、)我々の組合(静広美)もあらゆる面で活躍している。この頃は行政の協力もあり感謝している。
- ・わざわざ昭和のまち並みをつくっているところがテレビで紹介されていたが、清水はレトロな昭和時代に作られた看板も残っていて、いいロケーションがある。
- ・これからも行政の頑張りに期待している。



▲写真13 田代理事長

■ 田代理事長 (清水銀座商店街振興組合)

- ・いろいろな話を聞きながらまちを歩いて看板に対して少し詳しくなった。
- ・通り(商店街)をきれいにしたときに、吊下げ看板をみんなで造ろうという話が持ち上がりお店ごとに看板を造った。それに関わっていたので看板については知識があったが、話を聞きながら回ってみて、看板のすごさ、味のある看板など新しい発見があった。
- ・今あるお店は寂れていないから残っている。みんな頑張っています。新装開店している店もあります。決して寂れてはいません。大丈夫です。
- ・リノベーションスクールや中心市街地の再開発など官民一体となった取組みがありますが、今日は看板というひとつのものを通じて清水銀座商店街を見直すいい機会になった。

8. 所見

2回目の開催となった「看板まち歩き」は、前年同様、看板の果たす役割や安全性について、特に商店街関係者に考えていただくことを目的として開催した。

商店街振興組合を通しての広報、ポスターの掲示依頼や一店舗ごとにチラシを配布しながら開催のお知らせをし、多くの参加を期待したが、やはりお店を開けたままでの参加には躊躇があるようで商店街関係者の参加は2名にとどまった。ならば、一緒にとおりを歩けなくても店先での参加は可能であろうと、気に入った看板を掲げた店舗の店主などに積極的に声をかけ、看板やまち並みの情報を得ることとした。店先で専門家（自称看板職人の集団）と店主とが会話をする中で、それぞれの立場・目線で看板を見直す機会にはなったと思う。看板のエピソードを聴くと、看板に対するそれぞれの思いがよく伝わってきた。店の顔でもある大切な看板をいつまでも大切に残してほしいと思う。（そのための維持管理を！）

しかし、自店の看板だけでなく、まち（商店街）の看板を一緒に見て一緒に考えるという事が重要であるので、参加しやすい状況づくり、参加したいと思わせる内容を検討する必要があると感じた。また、今回は静岡県広告美術業協同組合（清水支部）の積極的な協力を得ることができたので、今後は行政主催ではなく、行政+業者の共催、行政+地元の共催での開催ができるように官民連携をさらにすすめていくことができればと感じた。

9. 参加者の声

- 「看板娘」「看板打線」看板商品」。・・・まくらに「看板」が付くとすごくいいイメージになるのに、「看板」だけだと、この頃は邪魔だとか、危ないだとか、悪いイメージになってしまう。
- いい看板は時間がたってもメッセージを発信している。錆ついててもその錆がいい色合いになり、いい看板であり続ける。
- 何が書いてあるかわからない看板はだめ。用を足していない。

10. 添付資料

アンケート集計結果



ポスター（チラシ）



表彰状



啓発用ガイドブック

「良い看板」がいつまでも残るように、
日頃の安全管理が行われるように期待を込めて。